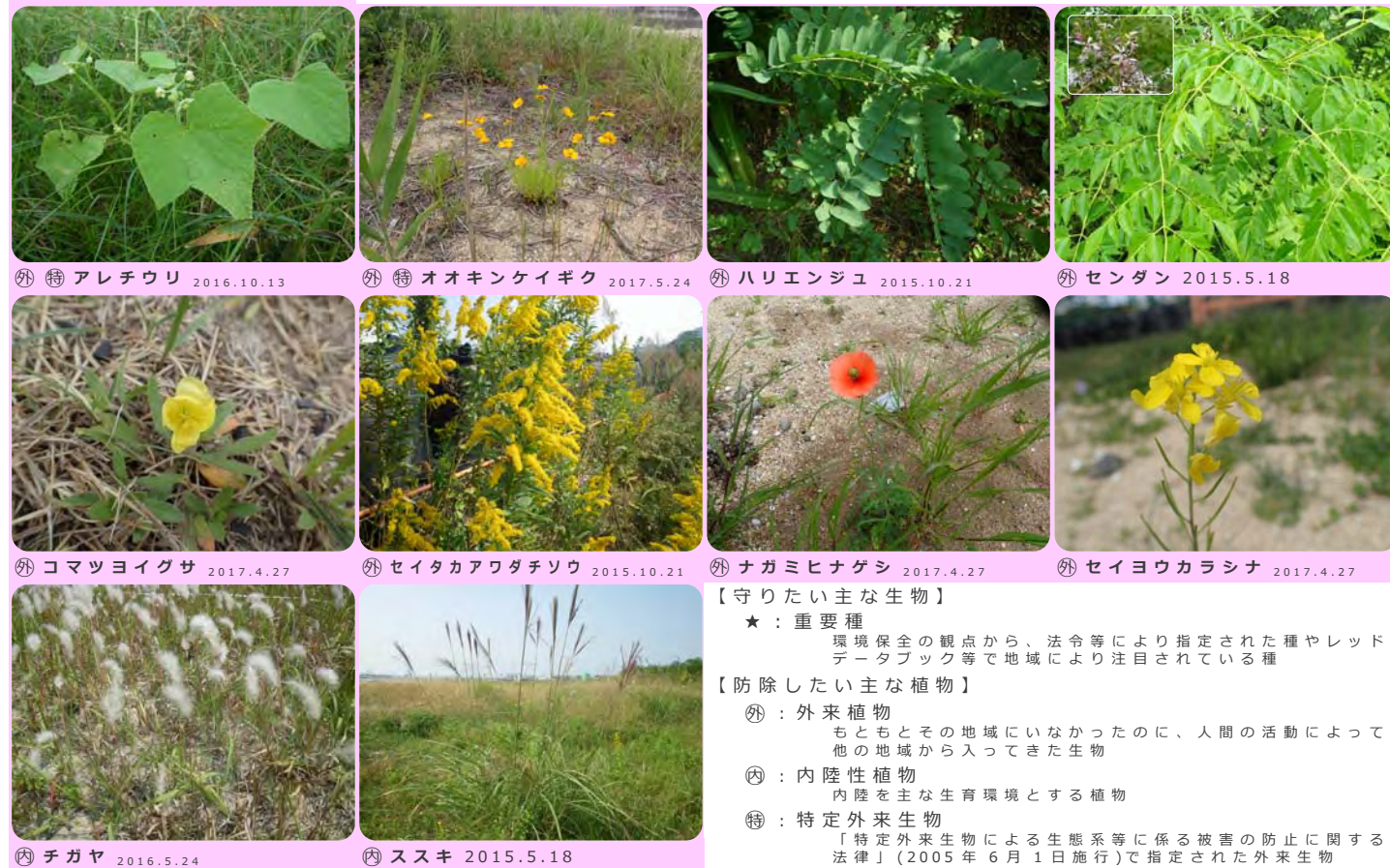


3 川越の浜(高松海岸)の主な生物

守りたい主な生物



防除したい主な植物



【守りたい主な生物】
★：重要種
環境保全の観点から、法令等により指定された種やレッドデータブック等で地域により注目されている種

【防除したい主な植物】
㊦：外来植物
もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物
㊧：内陸性植物
内陸を主な生育環境とする植物
㊨：特定外来生物
「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(2005年6月1日施行)で指定された外来生物



1 高松海岸(干潟) 高松海岸(干潟)は、高松海岸部(延長約400m)と朝明川河口部(干潟面積約28ha)で構成された三重県最北端に唯一残る半自然海岸です。砂浜や干潟を代表する植物や生物が生息し、鳥類が越冬地や渡りの中継点として、多くの人々が憩いの場、レクリエーションの場として利用しています。

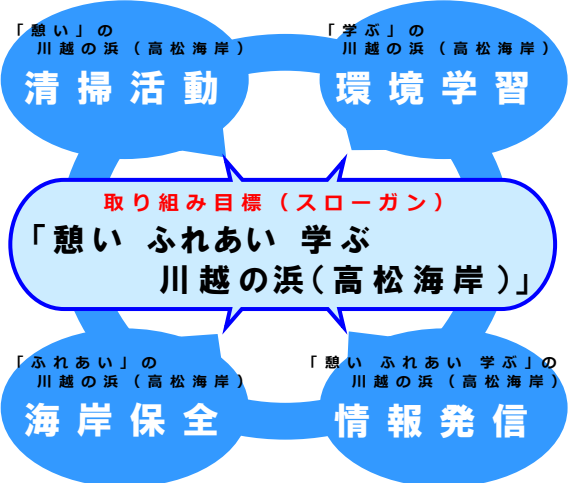


2 ワークショップと取り組み事例

霞4号幹線の整備を契機に、工事完了後(2018年度以降)の高松海岸(干潟)が地元住民や海岸利用者にとってより親しみやすい場所になるよう、「利用」と「保全」の両面から今後の取り組みのあり方について意見交換する「高松海岸の利用と保全に関するワークショップ」を2015年度から2016年度に、計6回開催しました。

ワークショップでは、高松海岸(干潟)を「川越の浜(高松海岸)」と名付け、今後の取り組みの目標「憩い ふれあい 学ぶ 川越の浜(高松海岸)」と取り組みの4つの柱(「清掃活動」「海岸保全」「環境学習」「情報発信」と具体的な事例を整理しました。

この取り組み事例は、実施主体を明らかにしたり、関係機関の策定する計画に反映することを目的に整理したものではありません。「川越の浜(高松海岸)」での様々な取り組みを知り、興味を持った方々が自ら主体となって行動する際の参考に利用していただきたいと思います。





清掃活動

(1) 「憩い」の川越の浜（高松海岸）をめざして

はじめる つながる そだてる



取り組みのポイント

- 1 海岸で実施している既存の多くの清掃活動（個人や民間団体などが実施主体）は今後も継続していきましょう。
- 2 台風や大雨の後に漂着する大型で大量のごみの処理は、行政機関と協力して対応していきましょう。
- 3 ごみ処理施設の利用など、今後も、行政機関との協力関係を維持し、清掃活動を継続していきましょう。
- 4 自然ごみ（枯れ草など）はそれらを利用する生物のために回収せず、人工ごみは可能な限り回収・撤去しましょう。
- 5 清掃活動は「高松海岸の環境を守る一助となっている」という意識をもって継続していきましょう。

取り組み事例一覧（実践事例【実】、今後の提案事例【案】）

取り組みの柱	めざす効果	具体的な内容
●ごみ清掃活動の実施	●親しみのある海岸景観・機能の向上	☞清掃活動の実施【実】 ☞町老連による海岸清掃【実】※現在は休止中 ☞個人による海岸清掃【実】
●清掃活動の連携と協働	●清掃活動の継続性の向上	☞多様な実施主体の連携【実】
	●行政機関との継続的な協力関係の構築	☞処理施設の受入・処理に係る協力【実】 ☞回収、分別、運搬、処分等処理に係る協力【実】 ☞台風・出水後の大型・大量の漂着ごみの回収、分別、運搬、処分【案】



海岸保全

(2) 「ふれあい」の川越の浜（高松海岸）をめざして

はじめる つながる そだてる



取り組みのポイント

- 1 保全は、高松海岸部と朝明川河口部を繋がりのある“一つの環境”として考えましょう。
- 2 今ある環境を大切に、今の状態を維持するための取り組みを考えましょう。
- 3 外来植物や内陸性植物の防除（駆除）等の取り組みは、計画的かつ継続的に、“できる範囲から”進めましょう。
- 4 工事範囲の荒地は、海浜性植物（コウボウムギなど）を活用し、海浜植生を復元しましょう。
- 5 シロチドリ等の生息地（繁殖地など）の保全・創出等、海岸を利用する多くの生物の生息環境に配慮した方法を考えましょう。

取り組み事例一覧（実践事例【実】、今後の提案事例【案】）

取り組みの柱	めざす効果	具体的な内容
●保全活動の推進	●海岸の持つ多面的機能*の向上 <small>*海岸災害防止機能、良好な景観機能、生物多様性機能、海水浄化機能等</small>	☞海浜植生・海岸生物等を対象とした保全活動範囲の取り決め【実】
●海浜植生の保全	●海浜植生の維持	☞外来植物、内陸性植物の除草等【実】 ☞清掃活動団体との連携【案】 ☞継続的な取り組みに関わる協力（補助金・助成金等）【案】
	●海浜植生の復元	☞海浜性植物のタネまき・植栽等【案】 ☞継続的な取り組みに関わる協力（補助金・助成金等）【案】
●海岸生物の保全	●多様な生物の生息環境の創出	☞草地化した場所の除草（裸地化）等【案】 ☞継続的な取り組みに関わる協力（補助金・助成金等）【案】
	●干潟環境の改善	☞防砂堤の改善策の検討【案】



環境学習

(3) 「学ぶ」の川越の浜（高松海岸）をめざして

はじめる つながる そだてる



取り組みのポイント

- 1 公害問題、ごみ問題、生物（植物、動物等）等のテーマをもとに、環境利用と保全について学びましょう
- 2 参加者の対象に合わせ、活動内容にレクリエーションの要素を意識的に盛り込み、学習や熱意の熟成を促す仕組みを考えましょう。
- 3 教育機関、NPO、専門家が連携し、「川越の浜（高松海岸）」の自然環境を学ぶ場として活用しましょう。
- 4 「川越の浜（高松海岸）」の魅力を伝える人材（指導者）を育成する場として活用しましょう。
- 5 長時間の観察会を行う場合は、周辺施設（トイレ等）の利用を計画しましょう。

取り組み事例一覧（実践事例【実】、今後の提案事例【案】）

取り組みの柱	めざす効果	具体的な内容
●環境学習活動の継続・推進	●環境保全の意識向上	☞生きもの観察会の実施【事】 ☞生物・環境調査の実施【事】【案】 ☞学習施設（東屋、屋外看板等）の設置【案】 ☞小中学校の教育活動の一環（総合的な学習の時間を活用）【案】
●学習体制の充実	●学校、NPO法人、専門組織との連携	☞行政等による地元住民活動への技術協力（人材の派遣、専門家の紹介等）【案】 ☞ホームページ（行政、民間団体等）による実施主体（問い合わせ先）の紹介【案】
	●海岸保全指導者の育成	☞行政や民間団体等主催の講習会（現地実習、座学）の開催【案】



情報発信

(4) 「憩い ふれあい 学ぶ」の川越の浜（高松海岸）をめざして

はじめる つながる そだてる



取り組みのポイント

- 1 海岸の認知度を上げ、かつ海岸保全に結びつく情報を発信しましょう（看板を積極的に活用）。
- 2 海岸の安全利用、利用時のごみに関するモラル向上、海岸の環境、生物等に関する情報を発信しましょう（屋外看板等の活用）。
- 3 情報発信は主に小規模（町内規模）な範囲を対象にしていきましょう。
- 4 周年利用できる情報を発信しましょう。
- 5 情報発信は、行政機関との協力を検討しましょう。

取り組み事例一覧（実践事例【実】、今後の提案事例【案】）

取り組みの柱	めざす効果	具体的な内容
●情報発信の推進	●地元住民を中心とした川越の浜（高松海岸）の認知度の向上	☞小規模（町内程度）の情報発信【案】 ☞周年利用情報の発信【案】 ☞海岸案内標示板の設置【案】
●川越の浜（高松海岸）の魅力発信	●川越の浜（高松海岸）への愛着の醸成	☞屋外掲示看板・海岸案内標示板の設置【案】 ☞周年利用情報の発信【案】
●地元住民活動の情報共有化	●地元住民活動のネットワーク化・活動支援	☞活動紹介【案】 ☞各種活動の紹介による奨励【案】
●海岸美化のための情報発信	●モラル向上のための意識啓発	☞海岸利用ルール啓発看板設置【案】 ☞施設（トイレ等）の整備【案】 <small>※トイレの設置は反対意見もあり、意見が割れた</small>
●安全・防災の情報提供	●安全利用の推進	☞海岸の安全利用の啓発看板設置【案】 ☞施設（駐車場、東屋等）の設置情報【案】 ☞車椅子用の通路の整備【案】
	●防災対策の推進	☞緊急災害時の防災情報看板設置【案】 ☞緊急用通路（緊急車両用）の整備【案】